

週報

国際ロータリー・テーマ

夢をかたちに



Vol.42 第2063回例会

2009.2.12

今年度会長テーマ

(あい)に感謝 そして 実践しよう
ロータリーの志魂(こころ)

■司会：
石山例会運営委員

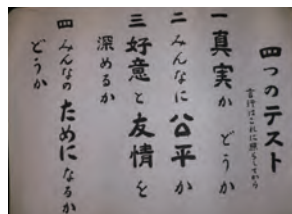


■点鐘：町田会長

■合唱：ロータリーソング
「我らの生業」



「4つのテスト」



◆ソングリーダー：村田会員

■お客様紹介：
島田パスト会長



◆ゲスト：津久井RC
山本芳昭様



◆ゲスト：故河野会員令夫人 河野仁子様

■会長報告

町田会長

皆さんこんにちは。パーティーや宴会などの時のお開きの時に、手締めがよく行われていますが、この手締め、元々は手で打つので手打ちが正式な呼び方であったそうですが、江戸時代に手打ちは御手討ちを連想させるので手締めと言われるようになったそうです。手締めとは物事の決着を祝ったり、事を成就した時に喜んで行う揃いの拍手を言いますが、手を打ち鳴らす行為は神社で神様を拝む時の拍手から来ているそうです。拍手は柏の葉のように両手の指を揃え、手の平を合わせて打つことからきていて、神道で神様へのつつしみ、かしこむことの行いの拍手が手締めとして江戸の庶民の暮らしの中に取り込まれ、祝い事や喜びごとの時に行われるようになったそうです。よく手締めを行う時、勘違いをされている方が見受けられますが、最初の掛け声は「祝おう」が転じて「いよう」になったそうで、一般的な手締めは手拍子三つを三回繰り返して、最後にひとつ打つ。これが一本締めでありまして、この一本絞めを三回繰り返すのが三本締めといいますが、もっとも言い方で間違えやすいことですが「いよう」の掛け声の後、一回だけの手打ちのしかたは一本締めではなく一丁締めというのが正しいのであります。



小生はロータリーの知識も勘違いして自己流で思い込みがかなり多いように感じていますので、年間2,400円で毎月購入しているロータリーの知識の泉であるロータリーの友や、1,470円?であるガバナー月信に目を通して正しい知識を得ようと努力をしています。本日の卓話は今月の世界理解月間に因んで木下清一会員にお話をしてくるようですので、正しいロータリーの知識を得ることが出来ると大変楽しみにしているところであります。以上で会長挨拶といたします。ありがとうございました。

■例会日／毎週木曜日 12:30～13:30

■例会場／八坂神社 社務所

〒189-0013 東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／高橋 眞 田中 重義

■事務所／〒189-0013

東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL 042-393-7500

■幹事報告

相羽幹事

■東京江戸川RC：
「インターアクト年次
大会報告書」の受理と
お礼



■ガバナー事務所：
・バーミンガム国際大会
に向けた活動への協力依頼等について
分科会 2009年6月22日
テーマ「水と衛生」 国際大会会場にて

・地区オン・ツー・バーミンガム委員会開催の案内
について
平成21年2月18日(水) 18:00~20:00
於 武田製作所 会議室

■東京杉並RC：
「東京ロータリーハイウェイ」シンポジウムの
案内の受理
於 ホテルニューオータニ
ポスター、パンフレット、DVDの受理

■回覧：「友」インターネット速報 No.368

■出席報告

土田例会運営委員



在籍会員数	出席	免除	欠席	出席率
41	33	2	6	83.78

■前々回メイクアップ修正後前々会欠席：2名

■前々回出席率メイクアップ修正後：94.74%

■前々会メイクアップ者：

杵山会員：日高RC
北久保会員：所沢中央RC
目時会員：地域活動
竹田会員：地域委員会
當間会員：理事会
山本会員：地区委員会
當麻会員：地区委員会

■ニコニコBOX 肥沼クラブ管理委員



◆皆出席：
町田会長(14回目)
樺澤会員(12回目)



◆ご結婚祝月：
土方会員、石山会員



◆令夫人誕生祝月：
山本会員



◆故河野諭会員の会葬
御礼あいさつ：
土方会員、河野仁子様

◆嶋田会員：木原後援会
の報告会が
行われました。ありが
とうございました。



◆河野夫人：主人の葬儀

は、皆さまお世話になりました。立
派に送り出すことが出来ました。本
当にありがとうございました。

◆石山会員：先週のバスターガバナーとの語り合い
所用にて欠席いたしました。申し訳
ありません。

◆當麻会員：義理チョコありがとう。

◆細舘会員：写真、チョコありがとう。

◆隅屋会員、杵山会員：

甘いチョコありがとう。

◆山本会員：どさ周りしてて、例会・マイハウス
の空気は美味しいと思いました。

◆戸澤会員、五十嵐会員、木下会員：

義理チョコありがとう。

◆金子会員：菱沼さんいつもお世話様です。

◆當間会員：本日の嶋田会員の名札、失礼しまし
た。

◆村田会員：熊木会員：

菱沼さんいつもありがとう。

◆山本様：お世話になります。

本日のニコニコ合計： 46,000円
累 計：1,095,614円

■委員長報告

■高橋(眞)クラブ 管理委員長



職場見学及び親睦旅行へ是非多くの方の御参加をお願い致します。

今日現在27名の参加申込みです。

残り3名、30名が目標です。ご協力宜しくお願い致します。

■東村山体育協会より駅伝大会感謝状



■卓話～世界月間に因んで

■卓話者紹介： 中丸プログラム委員長



■木下国際奉仕委員長



皆さんこんにちは。二月は世界理解月間と指定されています。国際奉仕委員会で卓話させていただきますが、その後地区の委員であります神崎さんから対人地雷除去について報告をして頂きます。その後野澤地区青少年交換委員長にやって頂きます。

ポール・ハリスなど4人が会合を開いた2月23日はロータリーの創立記念日でもあります。2月23日は我が東村山ロータリークラブの創立記念日でもあります。また、ポリオプラスについてふれて話をいたします。ポリオ撲滅運動に活躍された方の話をさせていただきます。当2580地区の東京麹町ロータリークラブの

二人の方が大変ご活躍された事は、皆さんご存知と思います。東京麹町ロータリークラブの山田さんはポリオ免疫プロジェクトを始めることになった動機を次のように話しています。

私がインドへ行った時の事です。夜遅くまで続いた会議の帰り、ギョッと立ち止まるとガサガサと音がしたのです。犬か猫が餌を漁っているのかと、音の方向を見ますと月の明かりで山田さんが見たものは、芝生の上をやせ細った少年が、手と肘を使って這っている姿でした。それは今思い出しても胸が締め付けられるような痛々しい光景でした。多分幼い頃にポリオにかかり足が麻痺してしまったのでしょう。この少年の姿を見た時、山田さんは南インドの子供達を日本人の手でポリオから救いたいと思いが生まれたそうです。

山田さんは1981年からボランティアとしてインドのハシカ免疫プロジェクトである、4週間の奉仕活動に従事されました。その経験を活かして翌年、南インドのポリオ免疫プロジェクトを推進され、近隣13クラブの共同奉仕として活動の巾を広げ、更に東京地区の100以上のクラブの協賛を得て、奉仕の巾を更に大きくし効果も上がってまいりました。

山田さんは講演の最後に、世界は急速に変わっています。人間が月へ旅行できること、他人の臓器で生命を救うこと、生活水準の向上など。しかし世界の子供達はみんな健康で幸福に育っているのでしょうか。日本や先進国は恵まれています。しかし発展途上国では想像もつかない程、悲惨な状態が続いています。どうか皆さんの手で発展途上国の子供達を救ってあげてください。お願いします。と、目にいっぱい涙をためて深々と頭を下げて講演が終わり参加者の拍手はいつまでも鳴り止みませんでした。山田さんは、地区世界社会奉仕委員長を勤められ、麹町ロータリークラブの医師でもある峰英二氏は、常に山田さんと一緒に南インドでのワクチン投与の奉仕活動に従事されインドに行かれ活動されました。その山田さんは1988年7月12日に東京麹町ロータリークラブ会長在任中に病にふされ、その後間もなく逝去されました。64歳。病名は定かではありませんがインドでの風土病とも言われています。一緒にインドで活躍された同僚の峰英二氏も山田さんの後を追うように、1989年6月に69歳で逝去されました。

この二人はまさにポリオプラス活動の世界的規模の運動への発展の原動力、推進力となり多大な貢献をなさいました。ポリオプラスに命をかけたロータリアン山田ツネさんに学ぶと題して月信に紹介されていましたことを紹介いたしました。

■神崎対人地雷の除去 に関する特別委員会 常任委員



今年の6月まで常任委員ですが、7月からは外れます。新しい年度からは寄付金集めはなくなります。カンボジア対人地雷除去活動が来年2月で最終年の10年目を迎えます。10年目を迎えることにより皆さまも是

非カンボジアに行っていたきたいと思います。
今24名の特別委員会の委員が現地に行っています。
10年を迎えるにあたりイベントの打ち合わせに行っています。地雷がなくなりつつあり状況が一変しています。現地の皆さまの生活様子も大きく変わろうとしています。除去費用が年間一千万円かかります。今年6月までに来年分の一千万円をイギリスに振り込むようになっていきます。ですので、再来年度はやりませんので一応10年で終了します。皆さまにご協力頂きました事厚く感謝しています。
多摩分区分の責任者として精一杯努めてまいりました。来年の6月をもって終了します。誠にありがとうございました。

■野澤青少年交換委員長



日本語研修及び合同サマーキャンプ終了式挨拶

皆さん、東山荘での生活が本日で終了します。大変お疲れ様でした。はじめに来日生の皆さんにお話します。皆さんは8月の来日早々、10日から今日まで17日間にわたる日本での生活の第一歩、いかがでしたでしょうか。とりわけ11日から21日までの日本語研修はとて厳しかったと思います。日本語はとて複雑な部分が多いです。皆さんの中には日本語に対する予備知識を持って来日した方、またいきなりこの講習に飛び込んだ方と様々ですが、先ほどのスピーチを聞いて安心しました。これは皆さんの意欲と努力の結晶です。先日もお話しましたが、人と人の係わり、家族や学校での生活の基本、始まりはまず言葉からです。会話が出来ないくらいはがゆく、もどかしく、悔しいことはありません。皆さんと一緒に生活して私もよくわかりました。皆さんはとて頭も良く、いろいろな面で優秀な学生です。一日も早く日本語をもっともっとマスターし、そして心の交流まで出来るように期待しています。

そして22日からは来年皆さんの国にそれぞれ派遣される日本の高校生13名との合同の生活をしました。いかがでしたか。その合同キャンプのメインイベントに富士山の山登りがありました。来日の皆さんに日本一の富士山に登って欲しい、その体験をしてほしい、そんな思いで計画しましたが、残念ながら最悪の天気でした。私も五合目までバスの後ろについていき、山小屋では名物のキノコうどんを食べながらも雨は次第に強くなり、激しくなり、中止すべきか、実行すべきか、最後の最後まで悩みました。30分も40分も出発を遅らせ、雲の様子を見ながら、委員長としていつ、どの判断を下すべきか、悩み続けました。そして決行!!午後2時出発!!この決断をして皆さんを見送りましたが、その晩は眠れぬ思いで過ごしました。滝澤さんと何度も連絡をとり合いました。そして翌朝無事下山できたことの連絡にひとしおの安堵と感激を感じたものでした。富士山は日本一の美しい山です。皆さんが登った富士山は特に冬には雪をかぶり、

さらに美しくなります。自然は私達をやさしく迎えてくれます。たくさんの恵みも与えてくれます。しかし反面時として厳しい試練も与えてくれます。皆さんが体験した富士登山はその厳しい自然の試練の日でした。もしかしたら中止を願っていた人も多かったと思います。しかし私は委員長としてゴーサインを出したことに決して後悔はしていませんでした。なぜならば皆さんはめったに経験することが出来ない大自然の厳しい恵みと試練を受けられたのです。しかも日本一の富士山から受けることが出来たのです。この経験を大きな誇りとして自分自身に、さらに母国の友人達に、胸を張って話してください。もう皆さんは何も怖いことはありません。これからの日本での生活の大きな自信と意欲、厳しさと優しさを胸に秘め、明日からの日本での生活をエンジョイしてください。私達はいつでも皆さんを応援しています。さて、次に派遣生の皆さん、今私が来日生の皆さんにお話したことは裏返せばそっくり皆さんに当てはまることです。従って今日は多くは申しません。これから一年間いろいろな行事、オリエンテーションを通して機会がありますので、その機会をとらえていろいろなお話をし、親善大使としての心構えを身につけていただきたいと思います。最後に先日ブラジルに派遣された第44期生のお手紙をご披露します。

「ブラジルに到着して3週間が過ぎようとしています。本当に時間が経つのは早いなあと感じる毎日です。ブラジルに来る前の夜は、いつもと変わらずに寝て、普通に起きて、飛行場に行き、みんなに見送られ、両親の涙を見て、気付いたら飛行機の中。飛行機に乗っても自分がブラジルに行くなんて実感がわきませんでした。飛行機の中では親友がくれた手紙を何度も読み返して、何度も泣いて、本当にブラジルでやっていけるか、と不安になりました。今までずっときいていたのに、気付いたら泣いている自分が居ました。アメリカまでずっと泣いて、疲れて寝て、起きるとまた涙を流し…と繰り返している私の隣で食事の時間に気付かずに寝ている私の為に、ちゃんと食事とオレンジジュースを取っておいてくれて、ティッシュをくれた優しいお腹の大きなアメリカ人のおじちゃんも忘れられません。でもそんなことを繰り返してる間にアメリカに着き、無事にサンパウロにも着き、何のトラブルも無くこれから1年間生活するBelo Horizonteに到着しました。飛行機や飛行場でも何回もポルトガル語で何かを聞かれたり話しかけられたり。ポルトガル語で話しかけられても、何も出来ない様じゃ悔しい。だから早く言葉を覚えたい!!とその時に初めて思いました。」

私はこの手紙を何度も何度も読みました。2回目、3回目には感激のあまり涙を流しながら読みました。でもきっと次のお手紙には楽しいこと、嬉しいことがびっしり書かれて到着することを期待するのみです。

■点鐘：町田会長